

令和3年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和3年度全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料



児童・生徒の皆さんへ

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、小・中学生の「自分の考えを表現するチカラ」をもっと伸ばしたいと考えています。

児童・生徒の皆さんへの提案です。一日一行、文章を書く習慣を身に付けましょう。県教育委員会では、[365一行日記]のフォーマットをホームページに掲載しています。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

教職員の皆さんへ

各学校で行っている、児童・生徒の実態をきめ細かく把握する取組は、様々な場面での指導に生かされ、小・中学校9年間で一貫した指導のポイントを共有することにつながっています。

今後も、あらゆる場面で、一人ひとりのよい点や可能性に目を向け積極的に伝えるなど、児童・生徒の自己肯定感をはぐくむ取組を進めていきましょう。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

令和3年10月
神奈川県教育委員会

*本資料に掲載した数値については、基本的に政令市を含めた全県のデータとしている。

本資料作成の趣旨

全国学力・学習状況調査の目的の一つは、学校が、本調査結果を活用することで、日ごろの教育活動の成果や課題を把握し、その充実と改善を図ることにあります。

そこで、県教育委員会では、本調査結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として整理するとともに、各学校における「学びの充実・改善のヒント」となる取組事例をとりまとめました。

かながわの学びの充実・改善のための重点事項

- 1 児童・生徒一人ひとりの実態をきめ細かく捉えることが重要 ⇒ (p. 14)
- 2 小・中学校間で重視する指導のポイントを共有することが重要 ⇒ (p. 15)
- 3 校内研修を児童・生徒の資質・能力の育成の観点から一層充実させることが必要 ⇒ (p. 17)
- 4 自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要 ⇒ (p. 18)



学びの充実・改善のヒント

- 1 児童・生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばす指導 ⇒ (p. 22)
- 2 学びのつながりを意識した指導 ⇒ (p. 23～)
- 3 資質・能力の育成を図る校内研修の推進 ⇒ (p. 26～)
- 4 資質・能力の育成を図るための言語活動を充実させた単元(題材)づくり ⇒ (p. 28～)

「学びの充実・改善のヒント」は、県内の公立小・中学校への取材をもとに、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、取組事例をとりまとめました。参考としてください。

各学校においては、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、本調査結果を有効に活用し、創意工夫した授業改善に取り組むようお願いいたします。

本資料の構成

I	教科に関する調査の結果	P. 4
II	質問紙調査の主な結果	P. 14
	かながわの学びの充実・改善のための重点事項	P. 20
III	学びの充実・改善のヒント	P. 22
	<参考情報>	P. 33

本資料の活用にあたって

次に示した各章の【活用例】を参考にしながら、各学校の実情に応じて本資料をご活用ください。

I 教科に関する調査の結果

小学校の国語・算数と、中学校の国語・数学の教科に関する調査の結果について、結果の全体的な傾向、強み・課題といえる主な設問に注目して分析しています。

- 【活用例】
- ・校内の教科部会において、自校の結果の分析に活用
 - ・小・中学校合同の研修において、一緒に結果を分析 など

II 質問紙調査の主な結果

児童・生徒質問紙調査（69 項目）や、学校質問紙調査（91 項目）を分析し、全県の傾向を4つの項目にまとめて示しています。

- 1 学校が児童・生徒の実態を捉える取組
- 2 小・中学校9年間を見通した教育活動の取組状況
- 3 校内研修の実施状況
- 4 自分の考えを表現する学習活動の取組状況

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症に関する設問（11 項目）を分析し、全県の傾向を示しています。

新型コロナウイルス感染症の影響

- 【活用例】
- ・校内研修において、自校の児童・生徒の回答状況を確認
 - ・調査対象以外の学年にも調査を実施し、各学年の傾向を把握 など

I・IIのまとめ

かながわの学びの充実・改善のための重点事項

本調査結果を総合的に分析し、全県の傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として整理し、示しています。

- 1 児童・生徒一人ひとりの実態をきめ細かく捉えることが重要
- 2 小・中学校間で重視する指導のポイントを共有することが重要
- 3 校内研修を児童・生徒の資質・能力の育成の観点から一層充実させることが必要
- 4 自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要

Ⅲ 学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「**学びの充実・改善のヒント**」として取組事例をとりまとめ、示しています。

1 児童・生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばす指導

- (1) 児童が「自分で決める」ことを大切にした事例
- (2) 生徒が「考えを伝え合い気付き合う」事例

2 学びのつながりを意識した指導

- (1) 小学校で「分からない」を大切にし、中学校で「伝え合う」ことを重視している事例
- (2) 既習事項を踏まえ、実生活との結びつきや、これからの学びを意識した事例

3 資質・能力の育成を図る校内研修の推進

- (1) 全国学力・学習状況調査の教科に関する調査問題を活用した事例
- (2) 授業研究において学習指導要領解説を活用している事例

4 資質・能力の育成を図るための言語活動を充実させた単元（題材）づくり

- (1) 意見を述べる文章を書く単元づくりの事例
- (2) 観察や実験のまとめのレポートづくりの事例
- (3) 「単元計画（学びのプラン）」を活用した事例
- (4) 子どもたちの自発的な学びを単元に結びつける事例
- (5) 自発的な読書活動と単元の学習を結びつけて表現力を豊かにする事例
- (6) 国語辞典や漢字辞典の活用を単元に結びつける事例

【活用例】 ・児童・生徒の実態を踏まえた単元構想に活用
・小・中学校間で連携した授業研究に活用

など

<参考情報>

各学校において、児童・生徒にとっての豊かな学びを実現するために、参考となる各種資料を掲載しています。

令和3年度全国学力・学習状況調査の概要

調査期日 令和3年5月27日(木)

集計学校数、児童・生徒数(対象者:小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒)

参加校 小学校 848校(小学校840、特別支援学校小学部5、義務教育学校(前期)3)
中学校 401校(中学校389、特別支援学校中学部7、中等教育学校(前期)2、
義務教育学校(後期)3)

参加者 小学校 約7万1千人、中学校 約5万9千人

【参考】 県域(政令指定都市(横浜市、川崎市、相模原市)を除いた地域)

参加校 小学校 328校(小学校325、特別支援学校小学部3)

中学校 170校(中学校165、特別支援学校中学部3、中等教育学校(前期)2)

参加者 小学校 約2万5千人、中学校 約2万2千人

調査事項 教科に関する調査(小学校:国語、算数 中学校:国語、数学)

学校質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組等に関する質問

(小学校91項目、中学校91項目)

児童・生徒質問紙調査

調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活、新型コロナウイルス感染症の影響等に関する質問

(小学校69項目、中学校69項目)

留意事項 本調査結果は、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、また、学校における教育活動の一側面である。

<出典>令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領(文部科学省)

I 教科に関する調査の結果

平均正答数・平均正答率

* 県及び県域の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供された。

令和3年度	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	(14問)		(16問)		(14問)		(16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
全 国	9.1	64.7	11.2	70.2	9.0	64.6	9.1	57.2
神奈川県	8.8	63	11.3	70	9.1	65	9.3	58
全国との差	-0.3	-1.7	0.1	-0.2	0.1	0.4	0.2	0.8

<参考> * 県域は、政令指定都市(横浜市、川崎市、相模原市)を除いた地域

県 域	8.3	59	10.8	67	9.1	65	9.2	57
全国との差	-0.8	-5.7	-0.4	-3.2	0.1	0.4	0.1	-0.2

(文部科学省令和3年度全国学力・学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成)

本県の公立小・中学校の平均正答数・平均正答率は、全教科とも、全国公立学校の平均値と大きな差は見られなかった。

【参考】 全国の平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

<出典>令和3年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

小学校 国語

集計結果

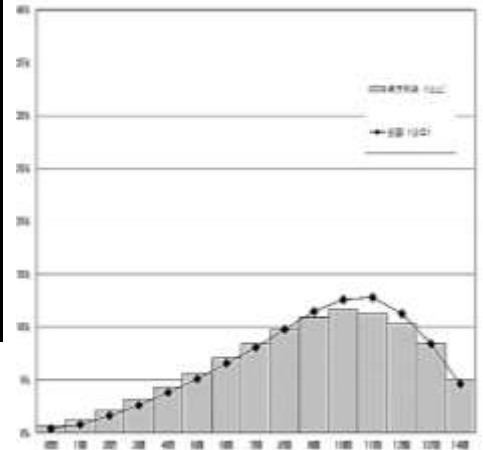
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体			14	63	64.7
学習指導要領 の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6	63.8	68.3
		情報の扱い方に関する事項	0		
		我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	78.9	77.8
		書くこと	2	58.3	60.7
		読むこと	3	48.7	47.2
評価の観点	知識・技能	6	63.8	68.3	
	思考・判断・表現	8	62.5	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	71.6	71.7	
	短答式	3	64.2	70.6	
	記述式	3	38.9	40.2	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	8.8 / 14	9.0	3.3
全国	9.1 / 14	9.0	3.1
自校	/ 14		



国語に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	自校
43	国語の勉強は好きですか	59.7	58.4	
44	国語の勉強は大切だと思いますか	94.1	93.2	
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.2	84.2	
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	91.8	
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	83.2	82.2	
48	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	64.6	63.8	
49	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	72.3	71.6	
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	74.9	74.3	
51	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	79.4	81.3	
68	解答時間は十分でしたか（国語）	64.3	70.3	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

① 目的に応じ、資料を使って話す

① 三

津田梅子についての【スピーチ】の練習の□の部分で話す内容として適切なものを選択する設問

	正答率
県	81.9%
全国	81.0%
自校	%

② 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う

② 二

面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する設問

	正答率
県	88.1%
全国	87.5%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

① 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

② 三

面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く設問

	正答	無解答
県	35.1%	5.1%
全国	34.4%	4.1%
自校	%	%

② 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

③ 二

丸山さんの【文章の下書き】の破線部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す設問

	正答	無解答
県	50.3%	13.6%
全国	56.6%	9.6%
自校	%	%

振り返ってみましょう!

「国語に関する児童の意識」では、

- ・ 国語の勉強は大切だと思う : 94.1%
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う : 92.6%
- ・ 国語の勉強は好き : 59.7%



となっています。

みなさんの学校の児童の意識はどのようになっているのでしょうか。
児童が国語の勉強を好きになるような授業の工夫をしていますか？

小学校 算数

集計結果

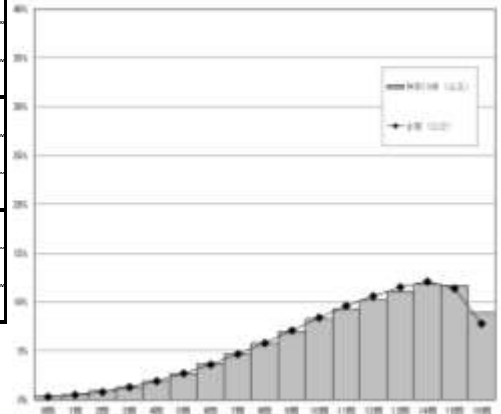
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体		16	70	70.2	
学習指導要領 の領域	数と計算	4	62.2	63.1	
	図形	3	57.3	57.9	
	測定	3	74.7	74.8	
	変化と関係	3	76.6	75.9	
	データの活用	5	77.1	76.0	
評価の観点	知識・技能	9	74.4	74.1	
	思考・判断・表現	7	65.1	65.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	77.4	76.0	
	短答式	6	75.4	75.8	
	記述式	4	52.2	53.0	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	11.3 / 16	12.0	3.6
全国	11.2 / 16	12.0	3.5
自校	/ 16		



算数に関する児童の意識（児童質問紙調査より 肯定的な回答をした児童の割合）

	質問	県	全国	自校
52	算数の勉強は好きですか	67.3	67.8	
53	算数の勉強は大切だと思いますか	94.0	93.8	
54	算数の授業の内容はよく分かりますか	84.3	84.6	
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	92.6	
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	75.5	73.9	
57	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	81.8	82.7	
58	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	89.0	89.0	
59	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	91.3	91.9	
60	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	77.9	79.9	
69	解答時間は十分でしたか（算数）	82.1	81.7	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

①速さと道のりを基に，時間を求める式に表す

1 (5)

分速 540m のバスが 2700m を進むのにかかる時間を求める式を書く設問

	正答
県	83.5%
全国	85.1%
自校	%

②示された除法の結果について，日常生活の場面に即して判断する

4 (1)

余りのある除法の商と余りを基に，23 個のボールを 6 個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く設問

	正答
県	83.0%
全国	83.0%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

①複数の図形を組み合わせた平行四辺形について，図形を構成する要素などに着目し，図形の構成の仕方を捉えて，面積の求め方と答えを記述する

2 (3)

二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の実面積の求め方と答えを書く設問

	正答	無解答
県	46.1%	5.3%
全国	46.0%	4.6%
自校	%	%

②小数を用いた倍についての説明を解釈し，ほかの数値の場合に適用して，基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する

4 (3)

30m を 1 としたときに 12m が 0.4 に当たるわけを書く設問

	正答	無解答
県	48.4%	13.5%
全国	51.5%	10.3%
自校	%	%

振り返ってみましょう！

「算数に関する児童の意識」では、

- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしている : 89.0%
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている : 91.3%
- ・算数の勉強は好き : 67.3%



となっています。

みなさんの学校の児童の意識はどのようになっているのでしょうか。

児童が算数の勉強を「分かる」「好きだ」と感じられるような授業の工夫をしていますか？

中学校 国語

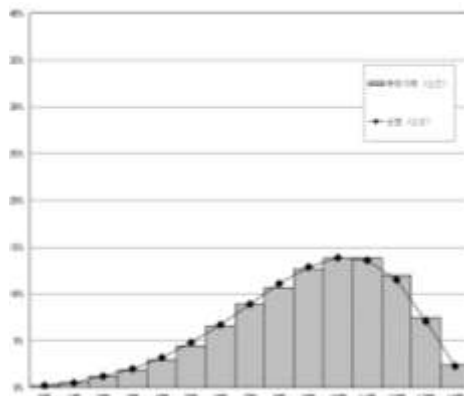
集計結果 分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体		14	65	64.6	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	79.8	79.8	
	書くこと	3	57.2	57.1	
	読むこと	4	49.6	48.5	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	75.6	75.1	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.1	56.0	
	話す・聞く能力	3	79.8	79.8	
	書く能力	3	57.2	57.1	
	読む能力	4	49.6	48.5	
	言語についての知識・理解・技能	4	75.6	75.1	
問題形式	選択式	6	64.7	63.9	
	短答式	4	74.8	74.4	
	記述式	4	56.1	56.0	

正答数分布

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.1 / 14	9.0	2.8
全国	9.0 / 14	9.0	2.8
自校	/ 14		



国語に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	自校
43	国語の勉強は好きですか	63.1	60.8	
44	国語の勉強は大切だと思いますか	92.3	91.6	
45	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.0	80.1	
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.1	88.7	
47	国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	82.6	81.8	
48	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	63.3	61.3	
49	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	75.7	74.6	
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか	77.9	77.0	
51	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	72.8	73.7	
68	解答時間は十分でしたか（国語）	79.6	75.3	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

① 質問の意図を捉える

1 二

話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する設問

	正答率
県	92.5%
全国	92.5%
自校	%

② 文脈に即して漢字を正しく読む

4 一 ①

文章中にある漢字を読む設問
「伸ばす（のばす）」

	正答率
県	97.3%
全国	97.5%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

① 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える

1 三

参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く設問

	正答	無解答
県	57.0%	3.3%
全国	57.1%	3.4%
自校	%	%

② 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ

3 四

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く設問

	正答	無解答
県	21.1%	22.8%
全国	20.5%	24.1%
自校	%	%

振り返ってみましょう!

「国語に関する生徒の意識」では、

- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている : 75.7%



「課題といえる設問」のうち、

- ・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」設問に対する無解答率 : 22.8%

みなさんの学校の生徒の意識や無解答率はどうでしょうか。

授業の中で、生徒が自分の考えを文章等で表現する活動を積極的に取り入れていますか？

中学校 数学

集計結果

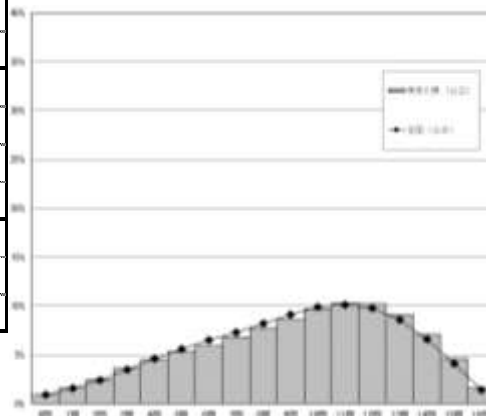
分類・区分別

自校のデータを
記入しましょう。

正答数分布

分類	区分	問題数	平均正答率(%)		
			県	全国	自校
全体		16	58	57.2	
学習指導要領の領域	数と式	5	65.9	64.9	
	図形	4	54.0	51.4	
	関数	3	56.4	56.4	
	資料の活用	4	53.4	53.8	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	43.2	41.1	
	数学的な技能	3	76.0	77.7	
	数量や図形などについての知識・理解	6	66.3	65.6	
問題形式	選択式	2	53.7	52.4	
	短答式	9	70.5	70.5	
	記述式	5	37.3	35.0	

	平均正答数	中央値	標準偏差
県	9.3 / 16	10.0	3.8
全国	9.1 / 16	10.0	3.7
自校	/ 16		



数学に関する生徒の意識（生徒質問紙調査より 肯定的な回答をした生徒の割合）

	質問	県	全国	自校
52	数学の勉強は好きですか	60.2	59.1	
53	数学の勉強は大切だと思いますか	82.7	84.1	
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	76.2	74.6	
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.3	74.6	
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	51.5	50.6	
57	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	75.3	75.8	
58	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	82.7	83.5	
59	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	82.5	86.6	
60	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」	56.7	57.8	
69	解答時間は十分でしたか（数学）	84.5	80.5	

特徴

A 強みといえる設問（平均正答率 80%以上より 2 問）

①与えられたデータから中央値を求めることができる

5

反復横とびの記録の中央値を求める設問

	正答
県	82.7%
全国	84.5%
自校	%

②問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる

6 (1)

四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき, それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く設問

	正答
県	84.4%
全国	83.9%
自校	%

B 課題といえる設問（平均正答率 70%未満より 2 問）

①数学的な結果を事象に即して解釈し, 事柄の特徴を数学的に説明することができる

6 (3)

四角で4つの数を囲むとき, 四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する設問

	正答	無解答
県	33.1%	28.1%
全国	30.3%	29.9%
自校	%	%

②事象を数学的に解釈し, 問題解決の方法を数学的に説明することができる

7 (2)

与えられた表やグラフを用いて, 2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する設問

	正答	無解答
県	28.0%	23.3%
全国	27.7%	24.7%
自校	%	%

振り返ってみましょう!

「数学に関する生徒の意識」では、

- ・ 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか : 82.5%

「課題といえる設問」からは、

- ・ 「数学的な結果を事象に即して解釈し, 事柄の特徴を数学的に説明することができる」設問に対する無解答率 : 28.1%
- ・ 「事象を数学的に解釈し, 問題解決の方法を数学的に説明することができる」設問に対する無解答率 : 23.3%

みなさんの学校の生徒の意識や無解答率はどうでしょうか。

授業の中で、生徒が表、式、グラフなどを使って数学的に説明する活動を積極的に取り入れていますか？



教科に関する調査結果のまとめ

<p>小学校 国語</p> <p>○「目的に応じ、資料を使って話す」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」設問の平均正答率が高い。</p> <p>△「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」記述式設問の平均正答率が低い。</p> <p>△「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、<u>自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する</u>」記述式設問の平均正答率が低い。</p>	<p>小学校 算数</p> <p>○「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する」設問の平均正答率が高い。</p> <p>△「<u>複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する</u>」設問の平均正答率が低い。</p> <p>△「<u>小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する</u>」設問の平均正答率が低い。</p>
<p>中学校 国語</p> <p>○「質問の意図を捉える」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「文脈に即して漢字を正しく読む」設問の平均正答率が高い。</p> <p>△「<u>話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える</u>」記述式設問の平均正答率が低い。</p> <p>△「<u>文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ</u>」記述式設問の平均正答率が低い。</p>	<p>中学校 数学</p> <p>○「与えられたデータから中央値を求める」設問の平均正答率が高い。</p> <p>○「問題場面における考察の対象を明確に捉える」設問の平均正答率が高い。</p> <p>△「<u>数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する</u>」設問の平均正答率が低い。</p> <p>△「<u>事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する</u>」設問の平均正答率が低い。</p>

【参考】平均正答率 80%以上：成果として認められる。 平均正答率 70%未満：課題として考えられる。

出典：全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
(平成24年3月 文部科学省、国立教育政策研究所)



小・中学校ともに、「理由を記述する」「考えをもつ」「説明する」などの設問の平均正答率が低い。

Ⅱ 質問紙調査の主な結果

1 学校が児童・生徒の実態を捉える取組

【学校質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校	
11	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	98.7	98.5		
90-1	全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、具体的にどのように活用していますか ①児童・生徒の傾向や課題を把握するために活用している	96.7	93.8		
VI	一斉臨時休業期間のうち学校の全部を休業していた期間が終了した以降に当該休業への対応としてどのようなことを行いましたか（複数選択可）	児童・生徒の心身の状況のチェック	98.2	98.3	
		児童・生徒の学習状況及び成果の確認	90.0	88.8	

- 小・中学校ともに、児童・生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組を積極的に行っている。
- 小・中学校ともに、児童・生徒の傾向や課題を把握するために、本調査の結果を積極的に活用している。
- 小・中学校ともに、一斉臨時休業後に児童・生徒の様子や学習状況を積極的に確認しようとしている。

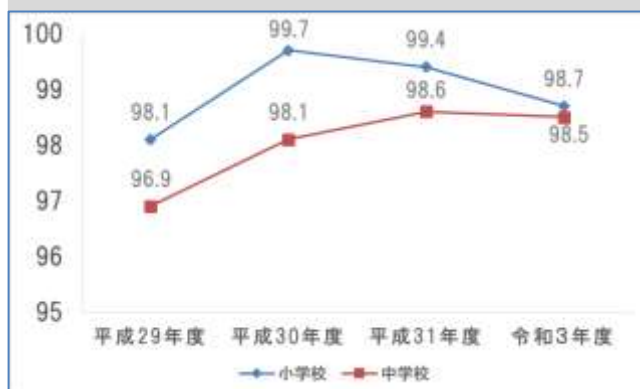
児童・生徒一人ひとりの実態をきめ細かく捉えることが重要

ここに注目！

学校では、児童・生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組を積極的に行っていますが、経年変化に注目すると、少し低下傾向にあることが分かります。

児童・生徒一人ひとりには、それぞれのよい点や可能性があります。教員がそれを見つけ、評価することで児童・生徒の自己肯定感が高まり、自信をもって自分の考えを表現していくことができるようになると考えられます。

11 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



2 小・中学校9年間を見通した教育活動の取組状況

【学校質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校
10	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか	96.7	98.8	
33	調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	88.1	96.7	
34	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業において、児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	85.8	86.3	
29	調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	81.2	89.3	
30	調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	66.0	84.3	

【児童・生徒質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校
36	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	95.3	96.0	
31	前学年までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	81.1	81.8	
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	72.5	71.1	
37	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	77.9	75.7	
32	前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	65.6	67.0	

- 小・中学校ともに、他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律の維持について積極的に指導している。
- 児童・生徒ともに、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後までしっかりと聞くことができている。



小・中学校間で重視する指導のポイントを共有することが重要

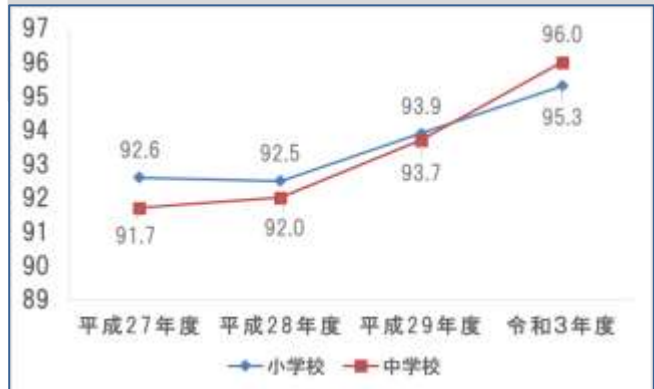
ここに注目！

児童・生徒質問紙から「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童・生徒は、徐々に増加傾向にあることが分かります。

これは、今年度新たに設けられた学校質問紙(10)の結果に見られるように、小・中学校ともに、児童・生徒に対して、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を大切にされた指導をしている成果として表れているものと考えられます。

接続する小・中学校において、9年間を通して重視する指導のポイントを共有し、学びのつながりを意識した指導を心がけましょう。

36 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか



3 校内研修の実施状況

【学校質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校
22	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	94.6	95.3	
23	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	96.1	90.3	
88-3	全国学力・学習状況調査の問題（教科に関する調査）を具体的にどのように活用していますか ③学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている	28.2	20.4	
88-4	全国学力・学習状況調査の問題（教科に関する調査）を具体的にどのように活用していますか ④問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている	34.7	32.9	

- 小・中学校ともに、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。
- 小・中学校ともに、本調査問題を活用し、学習指導要領の理解や授業改善に向かう校内研修を進める必要がある。

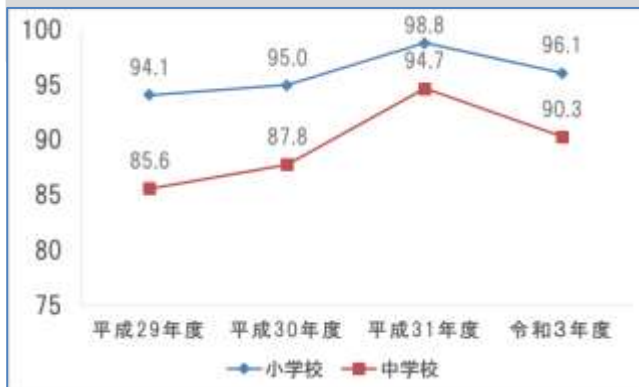
校内研修を児童・生徒の資質・能力の育成の観点から一層充実させることが必要

ここに注目！

22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか



23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか



学校質問紙(22)、(23)では、小・中学校ともに肯定的な回答をした割合は90%以上でした。コロナ禍による様々な制約がある中で、多くの学校で校内研修が実施されていることが分かります。

4 自分の考えを表現する学習活動の取組状況

【学校質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校
30	調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	66.0	84.3	

【児童・生徒質問紙】

	質問	小学校	中学校	自校
32	前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	65.6	67.0	

- 小・中学校ともに、「理由を記述する」「考えをもつ」「説明する」などの設問の平均正答率が低い。(P.13)
- 小・中学校ともに、授業の中で自分の考えを表現する活動を充実させ、その意義や目的を児童・生徒と共有する必要がある。

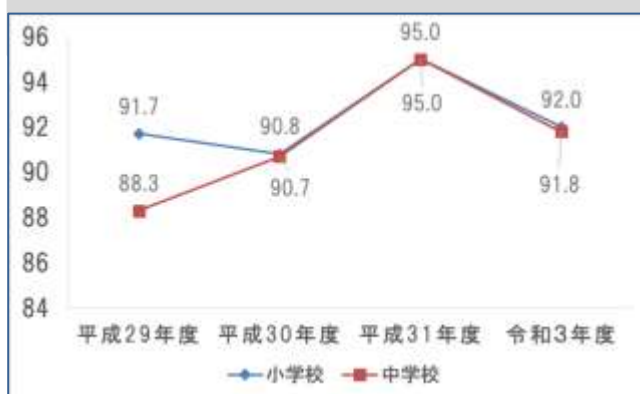


自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要

ここに注目!

学習指導要領解説 総則編では、「言語能力を支える語彙の段階的な獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」とあります。学校質問紙(21)から、本県では、言語活動について国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいることが分かります。このような取組の目的を教員と児童・生徒で共有し、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現することの大切さを実感できるよう指導をしていきましょう。

21 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



新型コロナウイルス感染症の影響

令和3年度の本調査には、新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問が加わりました。その中から特徴的なものを取り上げました。

【児童・生徒質問紙】

＜新型コロナウイルス感染症の影響を問う設問＞

質問		小学校	中学校	自校	
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	53.0	62.1		
65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	63.9	38.1		
66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	62.6	45.4		
67	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）	先生に聞いた	8.5	8.7	
		友達に聞いた	30.5	48.9	
		家族に聞いた	76.8	44.9	
		先生、友達、家族以外の人に聞いた	8.8	13.6	
		自分で調べた	58.3	59.8	
		分からないことをそのままにした	9.0	11.9	
		分からないことがなかった	13.8	7.6	
	思い出せない	4.7	6.5		

- 新型コロナウイルスの感染拡大ですべての学校が臨時休業していた期間中、勉強について不安を感じていた児童・生徒が5割を超えている。
- 中学校では、新型コロナウイルスの感染拡大ですべての学校が臨時休業していた期間中、計画的に学習を続けることができた生徒が4割以下である。

学校は、児童・生徒の学びが続くように指導・支援していくことが必要

ここがポイント！

学校では、一人ひとりの児童・生徒が授業以外の場でも、自らの学習を進めることができるよう、そのきっかけを与えたり、方法を丁寧に教えたりするなど、個に応じてきめ細かく指導・支援することが必要です。

＜児童・生徒の学びが続くようにするためのサイクル＞

- ・児童・生徒が学習状況を把握できるように、学校は指導・支援すること
- ・具体的な学習の方法や予定を児童・生徒とともに考えること
- ・児童・生徒が自分で計画した学習を進めること
- ・児童・生徒による自己評価を促すこと
- ・教員による評価（励まし、価値づけ等）を行うこと

このサイクルにより、児童・生徒の自学自習が定着していくと考えられます。



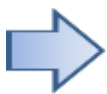
かながわの学びの充実・改善のための重点事項

本県の公立小・中学校における令和3年度全国学力・学習状況調査結果について、これまで示してきた全県的な傾向を踏まえ、「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」として、次のとおり整理しました。

1 児童・生徒一人ひとりの実態をきめ細かく捉えることが重要 (P. 14)

- ・小・中学校ともに、児童・生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する取組を行っている。
〔学校質問紙 小学校…98.7% 中学校…98.5%〕
- ・小・中学校ともに、児童・生徒の傾向や課題を把握するために、本調査の結果を活用している。
〔学校質問紙 小学校…96.7% 中学校…93.8%〕
- ・小・中学校ともに、一斉臨時休業後に児童・生徒の様子や学習状況を確認しようとしている。
〔学校質問紙 心身の状況チェック 小学校…98.2% 中学校…98.3%
学習状況及び成果の確認 小学校…90.0% 中学校…88.8%〕

➤この結果を踏まえ、今後も、児童・生徒一人ひとりの実態をきめ細かく捉えることが重要



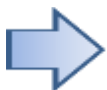
学びの充実・改善のヒント

「1 児童・生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばす指導」(p.22)

2 小・中学校間で重視する指導のポイントを共有することが重要 (P. 15)

- ・小・中学校ともに、他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律の維持について指導している。
〔学校質問紙 小学校…96.7% 中学校…98.8%〕
- ・児童・生徒ともに、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。
〔児童・生徒質問紙 小学校…95.3% 中学校…96.0%〕

➤この結果を踏まえ、今後も、小・中学校間で重視する指導のポイントを共有することが重要



学びの充実・改善のヒント

「2 学びのつながりを意識した指導」(p.23～)

3 校内研修を児童・生徒の資質・能力の育成の観点から一層充実させることが必要 (P. 17)

- ・小・中学校ともに、校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている。

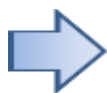
[学校質問紙 小学校…94.6% 中学校…95.3%]

- ・小・中学校ともに、本調査問題を活用し、学習指導要領の理解や授業改善に向かう校内研修を進めている。

[学校質問紙 学習指導要領の理解 小学校…28.2% 中学校…20.4%

授業改善に向かう校内研修 小学校…34.7% 中学校…32.9%]

- 組織的、継続的な校内研修を行っているが、学習指導要領の理解や授業改善に向かう校内研修の実施には課題があるという結果を踏まえ、一層の充実が必要



学びの充実・改善のヒント

「3 資質・能力の育成を図る校内研修の推進」(p.26～)

4 自分の考えを文章等で表現する学習を充実させていくことが必要 (P. 18)

- ・小・中学校における、「理由を記述する」「考えをもつ」「説明する」などの設問の平均正答率。

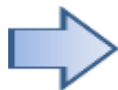
[各教科調査 小学校国語 ② 三 …35.1% 中学校数学 ⑦ (2) …28.0% など]

- ・授業で、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童・生徒の状況。

[学校質問紙 小学校…66.0% 中学校…84.3%]

[児童・生徒質問紙 小学校…65.6% 中学校…67.0%]

- この結果を踏まえ、小・中学校ともに、授業の中で、自分の考えを文章等で表現する活動の意義や目的を児童・生徒と共有した上で、学習を充実させることが必要



学びの充実・改善のヒント

「4 資質・能力の育成を図るための言語活動を充実させた

単元(題材)づくり」(p.28～)

Ⅲ 学びの充実・改善のヒント

1 児童・生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばす指導

(1) 児童が「自分で決める」ことを大切にしたい事例【小学校】

国語科の「書くこと」の指導において、自分の考えを書きたい、友達に伝えたいという児童の意欲が高まるよう、学校生活上の出来事などの身の回りのことを題材として取り上げるようにしています。児童が書いた文章については、まずは書いたということを褒めます。そして、内容については、できる限り肯定的に受け止め、励ますようなコメントをするようにしています。その際、教員からの直しは最低限にとどめています。



学習目標を実現するために、児童同士が互いにアドバイスする活動では、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」などの理由を示す言葉を用いるという観点を示し、書き表し方を工夫するように指導します。その際にも、アドバイスできたことを褒めます。大切なのは、様々なアドバイスを受け、修正するかどうかを決めるのは、文章を書いた本人とすることです。そのように判断した理由を尊重します。

(2) 生徒が「考えを伝え合い気付き合う」事例【中学校】

本校の生徒たちは、自分の考えを伝えることができ、このよい点を生かし、数学の問題演習の際、どのようにして答えにたどり着いたのかを他の人に説明するように指導しています。

生徒によっては、分かったような気がしているものの、実は分かっていないことがあります。自分の考えを確かなものとするための方法として、改めて説明することは、答えを出して満足する傾向にある本校の生徒たちにとっては有効です。

また、別の解き方がないか、探すことを大切にしています。その際、個人で考えたことをグループ内で共有し、同じ考えや異なる考えに触れるようにします。ここでも、その解き方を説明するように指導します。

逆に分からないときは、分からないといえることが大切だということも指導します。生徒同士を関わらせ、互いに教え合い、気付き合うという過程を大切にします。

このような学習を続けてきましたので、生徒たちには、分からないことがあれば、分からないと言える関係性ができてきました。



かもめ先生の7ポイントアドバイス

児童・生徒質問紙調査からは、在籍する児童・生徒が感じていることや考えていることを把握することができます。本調査の対象は小学校第6学年と中学校第3学年ですが、学校が指標とする質問項目については、他の学年でも年間に複数回実施するなど、継続的な実態把握を行い、その結果を踏まえ、よい点や可能性を伸ばす指導に生かすことも有効です。

<参考>「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料集（小学校，中学校）」P. 6

2 学びのつながりを意識した指導

(1) 小学校で「分からない」を大切に、中学校で「伝え合う」ことを重視している事例

【小学校】

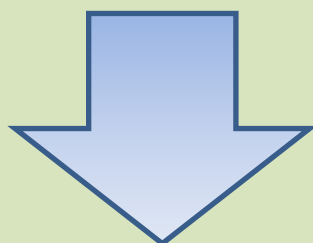
「分からない」は宝の言葉であると捉え、一人の「分からない」が「みんなの学び」につながると考えています。授業では考える時間をしっかりと確保し、自分の考えを表現するようにしていますが、「分からない」ということも、大切な表現だと指導しています。

個人で考えた後は、全体で話し合いをします。その話し合いのスタートになるのが、「分からない」という状況です。「分からない」という児童が、何が分からないのかを表現し、他の児童が、その分からないことを説明することで「みんなの学び」を深めていきます。

その際、教員が子どもの言葉を丁寧に受け止めながら話を聞きます。間違ふことを責めないという相手に共感する雰囲気づくりも日ごろから大切にしています。

そして、授業の後半は再び個人に戻り、自分の今日の学びについて振り返ります。

小学校での、分からなかったことが分かるようになった達成感や充実感
は、中学校の学びにつながっていく力となると考え、中学校の教員にも、私たちが大切にしている指導を伝えるようにしています。



小学校で「分からない」ことを認めてもらえる指導を受けた児童には、ありのままの自分を受け止めてもらえる安心感と自己肯定感が育つでしょう。そして、中学校で専門的な指導を受けたとき、自信をもって自分の考えを文章等で表現することができるようになると考えられます。

【中学校】

本校では、小学校において大切にしていた「分からない」ということを表現することや、それをきっかけにした「みんなの学び」を引き継ぎ、自分の考えを表現することができるように、様々な教科の学習で書く活動を多く取り入れています。

例えば、国語科の授業では、自分の考えや意見を明確に伝えるために、集めた情報を表などにまとめ、分類・整理したり、読み手に伝わるように構成を考えたりするなど、書くことができるようになるための手立てを具体的に活動に取り入れています。また、自分の書いた文章が、意図したとおりに伝わるかどうかを確かめるために、友達どうして読み、よい点や改善点を助言し合います。



生徒がノートに書いているメモを大切に、考えを表現することにつながりそうな言葉に線を引き、必ずコメントをつけて返しています。学習を構造化し、書くためのプロセスを見える化することや、こまめにノートを点検し助言することを粘り強く繰り返すことで、生徒たちは書きかたを学び、伝えたいことが明確になり、書く量も増えていきました。

(2)既習事項を踏まえ、実生活との結びつきや、これからの学びを意識した事例 **【中学校】**

本校の数学科では、本時の学習内容を確認する際、生徒に実生活との結びつきや、これからの学びとのつながりも伝えるようにしています。

前時までの既習事項、前学年の既習事項、小学校の学習内容などを振り返り、本時の内容とどのように結びつくのかを説明します。また、次時の学習への発展、次学年や高等学校での学習とのつながりや、実生活との結びつきを示すことで、生徒が学習する意味を感じられるようにしています。

また、単元計画を生徒に示し、学習目標や言語活動に対する見通しを持たせるとともに、小單元ごとに観点別に身に付けたい資質・能力を示し、学習後の振り返りができるようにしています。教科書等を参考にした例題も示し、自己評価を行う際に観点別に確認することができるように工夫しています。



かもめ先生のワンポイントアドバイス

「自ら学習を調整しようとする態度」や「粘り強く学習に取り組む態度」を見取る「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価にあたっては、教員が児童・生徒に学習目標や学習の計画、評価の方針等を事前に示しておくことが大切です。

小学校低学年の児童に対しては、学習の「めあて」などのわかり易い言葉で伝えるなど工夫しましょう。

このようなことにより、児童・生徒は学習に見通しをもち、「めあて」に向け自分なりに様々な工夫を行おうとしたり、対話的な学びを通して自らの考えを修正したり、立場を明確にして話したり、試行錯誤しながら学習を進めたりするなどのきっかけとなることが考えられます。

<参考>「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料集（小学校，中学校）」P.15



かもめ先生のワンポイントアドバイス

学習指導要領解説には、教科や各学年の目標の他に、内容の系統表が掲載されているものもあります。

例えば、下の資料のような、国語科における「〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと」の系統表があります。このような資料を参考に、学びのつながりを意識した指導を充実させていきましょう。

<出典>

小学校学習指導要領解説 国語編 P.204、205

中学校学習指導要領解説 国語編 P.174、175

B 書くこと		(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
題材の設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選択すること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	
情報の収集				
内容の検討				
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	イ 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。	イ 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。	イ 伝えたいことが分かりやすいように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。	イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。
記述		ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ	エ	エ
共有	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。
言語活動例	(2) (1)に示す事項については、例えば、	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
	イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	イ	イ	イ
	ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ウ	ウ	ウ
		(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
		ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。
		イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。	イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。	イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。
		ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。	ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。	

3 資質・能力の育成を図る校内研修の推進

(1)全国学力・学習状況調査の教科に関する調査問題を活用した事例【中学校】

本校では、校内研修のプロジェクトチームと各教科担当が中心となり、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、その結果を全教職員で共有し、「強み」と「課題」を見取っています。また、町における学力・学習状況調査を全国の調査と同日に行っており、その分析も併せて行うことで、1・2年生を含めた全学年の生徒の実態を捉えることができます。

この分析を活用しながら授業づくりを行っています。具体的には、

- ・教科会において、教科に関する調査問題を解く
- ・教科会において、本調査の報告書（文部科学省作成）を読み、資質・能力を育成するための指導のポイントを確認する
- ・単元の学びに適切に位置づく場合は、授業アイデア例を参考にしながら、調査問題を授業に取り入れる

などです。

さらに、授業づくり以外でも、調査を活用しています。

令和2年度は、教職員に「強み（継続し、伸ばしたい点）」と「課題（改善したい点）」のアンケートを行い、その結果も令和3年度の教育活動に反映しました。

例えば、本校では、生徒質問紙の「自分にはよいところがあると思う」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「学校に行くのは楽しいと思う」などへの過去の回答状況から、生徒の自己肯定感や学校生活へのモチベーションが低いという課題が見られました。

その対応策として、昼休みを10分長くして学級や学年でレクリエーションを行う「水L（水曜のロング昼休み、通称「すいエル」）」を9月から始めました。普段の授業とは違う生徒の姿や生徒が相互に理解を深めようとする様子が見られ、集団としての一体感を味わう1つの機会となっています。

教職員・生徒が工夫を凝らした取組である「水L」の実施により、各学級の雰囲気は確実に変化してきていると実感しています。

大切なことは、どのような生徒を育てたいのかを、全教職員で共通理解し、教育課程を編成していくことです。



(2)授業研究において学習指導要領解説を活用している事例【小学校】

本校では、授業研究において、学習指導要領解説を活用しています。

研究授業が決まると、授業者、そして、授業者と一緒に単元構想をするメンバーは、まずは、その単元において育成する資質・能力を分析します。解説に書かれてあることを何度も読み、分からないことを確認し合ったり、教材文と結びつけたりしながら、育成する資質・能力を具体的にイメージしていきます。

次に、単元の評価規準などを設定します。評価計画は単元の展開を構想しながら立案することが多いです。評価規準は、目の前の子どもたちの実態を踏まえ、国立教育政策研究所作成の学習評価に関する参考資料を参考にしながら設定しています。

そして、本格的な教材研究を行っていきます。「ここではどのように発問しようか」「登場人物の気持ちはどのように変化しているか」など、具体的に授業の流れを考えます。この教材研究の時間は、とても楽しいです。

しかし、教材研究に没頭するあまり、時々、何を目指していたかわからなくなることもあります。そのようなときは、解説をもう一度読み返し、その単元で育成を目指す資質・能力に立ち戻るようにしています。

授業研究の際の授業を見る視点や研究協議の際の協議の柱も、「育成する資質・能力」となっています。本校の教員は、子どもたちの学びの具体的な姿を見取り、その姿から授業を検証するようにしています。

このような取組もあり、本校では、研究授業のみならず、日頃の単元づくりにおいても、学習指導要領解説を活用するようになりました。

今日の授業の中で、Aさんは、「残雪」の呼称の変化に着目した発言をしていました。「残雪のことを『残雪め』や『たかが鳥』と呼んでいた大造じいさんが、最終的には『がんの英雄』と呼んでいた」という発言をきっかけに、他の子どもも、物語の全体像から考えるようになったと感じました。



このような教員同士のやりとりからは、小学校国語科における「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」という資質・能力がBさんに育成されつつある様子が分かります。

○精選・解説（文字的な文章）

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	小学校第1学年
<p>ア 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p>	<p>ア 登場人物の気持、その変化や性格、態度について、場面の変化や場面を結びつけて具体的に想像すること。</p>	<p>ア 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</p>	<p>ア 目的に応じて必要な情報に着目して資料したり、場面を想像し、場面と場面を結びつけて、内容を解釈すること。</p>

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

第3学年及び第4学年のみを受けて、この指導事項で促した登場人物の相互関係などを手探りしながら、その人物像や物語などの全体像を具体的に思い描くことや、優れた表現に着目しながら様々な表現の効果について考えたりすることや、登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の記述を結びつけ、それらをもとに想像や考え方を総合して判断することが必要である。この指導事項で促した学習や心算を踏まえ、物語などの展開と結びつけながら読んでいくことが重要である。

人物像などの全体像は、登場人物や場面設定、個々の記述などを基に、その世界



そうですね。Aさんの発言を聞いていたBさんは、急に教科書のページをめくり、物語を最初から読み返していました。そして、「大造じいさんは強く心を打たれ、ただの鳥に対して…」の叙述を根拠に、大造じいさんの人物像を想像し、発言していたと思いました。

4 資質・能力の育成を図るための言語活動を充実させた単元(題材)づくり

(1)意見を述べる文章を書く単元づくりの事例【中学校】

中学校第2学年の国語科「書くこと」における実践です。「考えの形成、記述」に関する資質・能力を育成するために、単元を通して新聞へ投稿する意見文を書く活動に取り組みました。第1学年で新聞記事を取り上げたスピーチを行って「話すこと」の学習をしてきたり、廊下に置いてある新聞を日常的に見たりすることができる環境にある生徒にとって、新聞は身近な教材となっていました。

そこで、身の回りの出来事や物事について、自分の考えを述べる文章を約600字で書き、新聞へ投稿する活動を設定しました。読み手は老若男女であるため、誰にでも分かる言葉を用いることや、適切な根拠を示すこと、具体例を加えて説得力を増すことなどに留意しながら、生徒は学習を進めました。



(2)観察や実験のまとめのレポートづくりの事例【中学校】

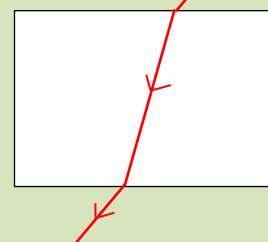
本校の理科の取組を紹介します。

本校では、既習事項や日常生活での体験、単元での学びや実験結果を根拠にした「他の人が一目でわかるレポートづくり」に取り組んでいます。

中学校第1学年で学習する「光の屈折」の実験で、「光がガラスの中で曲がった」と表現する生徒がいました。他の生徒が「ガラスの中でくねくね曲がるの？」と質問したところ、「あっ！」と気づいたように「光がガラスに入るところで曲がっている」と表現を変えていました。さらに、そのやり取りを聞いていた先生が「前の実験では光は直進するって結論だったよね？」と質問したところ、よりわかりやすい表現にするにはどうするかグループでの話合いが始まりました。

この実験結果に基づき、レポートを書いていきました。

光がガラスの中で曲がってる？



このような取組を通して、実験や観察の結果だけに注目するのではなく、自らの体験や単元での学びを振り返る生徒の姿や、どのような表現なら自分の考えが他者に伝わるのか試行錯誤する生徒の姿が見られるようになりました。

(3)「単元計画(学びのプラン)」を活用した事例【中学校】

本校では、単元の導入で、「学びのプラン」を活用して、生徒と学習目標や取り組む課題を共有しています。「学びのプラン」には、単元を通して身に付けさせたい力、評価規準、授業計画、評価の方法などを書き込みます。

「学びのプラン」を活用してみて良かったことは、単元を通して育成する資質・能力が明確になった点です。また、同じ領域の単元を学年で比べてみると、学年が上がるごとにステップアップしていく様子も明確になりました。

育成する資質・能力が明確になることにより、評価規準も明確になり、授業中に生徒の学習状況を評価するポイントがはっきりしてきました。そして、学習評価を次の学習指導に生かしたり、教員の授業改善に役立てたりし、指導と評価の一体化を図ることができています。

また、「学びのプラン」を生徒と共有することで、生徒も見通しを持って授業に取り組むことができ、自らの学習を振り返り、自らの学習を工夫したところを自覚するようになり、確かな成長につながっていると感じています。



かもめ先生のワンポイントアドバイス

学習指導にあたっては、学習指導要領に基づき、単元等において育成する資質・能力を明確にする必要があります。

科(第 二 学年) 単元構想表			
単元名 説話「高き」の是非を問う ～役力のある話をする～	おおよその時間 7	単元等を通して育成すべき資質・能力(学習指導要領により示される指導内容) 決められていること 〔知識及び技能〕(2) 情報の取っ方に関する事項 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。〔思イ〕 〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」 自分の立場や考えを明確にし、相手を納得できるように論理の展開などを考え、話の構成を工夫すること。〔A(1)イ〕	
学習活動を通して育成された資質・能力を把握するための評価活動(工夫すること)			
観点	単元等の評価規準(知識及び技能に関する事項以外)参照	評価項目 (指導と評価の焦点位)	評価方法(評価規準の実現状況を把握するための方法)
知識・技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(C2イ)	・議題討論の振り返り ・議題討論	・ワークシートの記述内容の分析 ・発言内容の観察
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を納得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ)	・議題討論の振り返り ・議題討論	・ワークシートの記述内容の分析 ・発言内容の観察
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く論理の展開を考え、今までの学習を生かして議論しようとしている。	・学習活動全体の振り返り ・学習活動全体	・ワークシートの記述内容の分析 ・学習活動中の観察
資質・能力を育成するために児童・生徒が行う学習活動 (工夫すること) ・議題討論(練習1回、本番1回)とその振り返り		活用する教材・教具等 (工夫すること) ・教科書 ・PISA調査問題 ・Webの検索	

そして、その資質・能力の育成にあたっては、言語活動の設定、扱う教材、指導方法、評価方法を工夫することが重要です。ここで紹介する単元構想表は、指導と評価の一体化を図るための有効なツールです。

単元構想表解説

学習指導要領により定められている資質・能力を転記します。これは全単元等に定められており、教育の機会均等確保のために、全ての教員が理解しておくべきことです。学習評価を適切に行うためには、指導し育成する資質・能力を明確にする必要があります。学習指導要領解説も読み、内容の理解に努めます。

単元等を通して育成する〔知識・技能〕の実現状況を把握することができるように設定します。

単元等を通して育成する〔思考力・判断力・表現力等〕の実現状況を把握することができるように設定します。

児童・生徒が、学習に取り組む中で、〔知識及び技能〕を獲得したり、〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。そのためにも単元等の導入では、当該単元等において育成する資質・能力を明示することが大切です。

科（第 学年）単元構想表

単元名 表紙「『書きさ』の是非を語り ～紙の力のある話をする～」 7	ねらい 単元等を通して育成すべき資質・能力（学習指導要領より示される指導目標） （知識及び技能） （2）情報の使い方が関する事項 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。（2）イ （思考力、判断力、表現力等） （A）話すこと・聞くこと 自分の立場や考えを明確にし、相手と交渉できるように論理の展開などを考え、話の構成を工夫すること。（A）（1）イ	評価観点 （指導と評価の視点） ・ 集団活動 ・ 集団活動の振り返り ・ 集団活動 ・ 集団活動の振り返り ・ 集団活動	評価方法（評価内容の把握状況） ・ ワークシートの振り返り ・ 振り返りシート ・ ワークシートの振り返り ・ 振り返りシート ・ 振り返りシート	こと評価した児童・生徒への手立て（B） ・ 評価した児童・生徒への手立ては、学習活動を通して絶えず行い、B評価になるように指導します。予め手立てを考へておくことが大切です。
--	--	--	--	---



評価方法は、評価場面において、育成する資質・能力の実現状況を把握することとできるものとします。適切な評価資料を必要に応じて作成します。単元を通して育成する資質・能力を明確にし、効果的な評価を行うようにします。

Cと評価した児童・生徒への手立ては、学習活動を通して絶えず行い、B評価になるように指導します。予め手立てを考へておくことが大切です。

評価場面は、その単元等の中で、記録に残す評価を行う場面とします。授業中の学習評価は常に評価と指導に生かす評価を使い分けるなど、効果的に評価を行うようにします。

資質・能力は、単元や題材等の中で言語活動を通して育成します。児童・生徒にとって必然性のある言語活動の設定や、扱う教材・教具等の工夫により、効果的に資質・能力を育成することができま

単元等の評価規程は、単元等の学習活動を通して育成する資質・能力の実現状況を図ることができるよう、指導する各教員が設定します。その際、国研の参考資料を参考にし、学習活動や教材・教具等を踏まえて設定しましょう。

(4)子どもたちの自発的な学びを単元に結びつける事例【小学校】

本校では、児童が、いつでも、自由にタブレット端末を活用することができる環境を整えています。授業中だけでなく、休み時間中も、児童の興味や関心に応じて、いつでも端末を活用することができます。

このような環境のもと、児童が進んで漢字の学習をしている様子を、よく見かけます。このような学習は、漢字の読み書きに関するものですが、これを単元の学習と結びつけ、漢字を適切に使用し、自分の考えを表現するように指導します。

漢字を使うことができるようになっていく喜びを、文脈の中で適切に使うことができる資質・能力の育成へと結びつけるようにすることで、児童はますます自発的な漢字練習をしていくようになりました。

毎週金曜日に行う朝ドリルにも、タブレット端末を活用した 10 分間の漢字学習を取り入れています。この学習にも、楽しみながら取り組んでいる様子が見られます。



(5)自発的な読書活動と単元の学習を結びつけて表現力を豊かにする事例

【小学校】

自分の考えを文章等で表現する力を育成する際には、国語科の「書くこと」に関する指導を行うことや、各教科等の学習活動の中で、書く活動を取り入れることが大切です。

また、そのような学習を充実させていくためには、日常的に多くの語彙や優れた表現に触れる機会を持つことや、そのような日常的な取組を、国語科をはじめとする各教科等の指導と結びつけることが重要です。

このような考えのもと、本校では、児童が読書に親しむ環境を整えるとともに、各教科の学習で積極的に学校図書館を活用するようにしています。

専門の職員が学校図書館に常駐し、児童の読書の相談や学習を進めるために参考となる図書の紹介をしています。



このように、読書を通して触れた表現を、国語科の「書くこと」の学習に取り入れて表現するように指導します。

児童は、読書によって出合った言葉を使い、自分の考えを表現する学習を進めています。徐々にではありますが、豊かな表現力が身に付いていると実感しています。

(6)国語辞典や漢字辞典の活用を単元に結びつける事例【小学校】

本校では、児童の語彙を豊かにするために、国語辞典や漢字辞典等を様々な教科で活用するよう、指導しています。

意味が分からない言葉や読めない漢字に出合ったときは、教科を問わず、日常的に辞典で調べるようにしています。

特に、社会科では、児童にとって馴染みのない言葉に触れる機会が多いため、そのような時には、必ず辞典を引くようにしています。

辞典の使用に際しては、「辞典に載っていた文章を書き写さないこと」を約束しています。児童は、辞典に載っていた言葉の意味をそのまま書き写し、調べた気になってしまいがちです。書き写しただけでは、その言葉は、身に付いたとは言えません。調べてわかったことを自分の言葉で書くことで、言葉の理解を促し、学習課題に対する考えを深めさせています。



神奈川県教育委員会の主な取組等 参考URL

神奈川県教育委員会では、児童・生徒にとっての豊かな学びの実現に向けて次のような取組を進めています。各学校での取組の参考としてください。

■全国学力・学習状況調査の結果について

県教育委員会が分析し公表した本県の調査結果をホームページに掲載した。また、各市町村教育委員会がホームページに公表した調査結果へのリンクを表示した。

<全国学力・学習状況調査の結果について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakujo/shichousonkekka.html>

■国立教育政策研究所「授業アイデア例」の活用（H21～R3）

国立教育政策研究所は、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すものとして「授業アイデア例」を作成し、学校や教育委員会などに配布するとともに、ホームページに掲載している。

<国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

■学校運営・教育指導の重点

本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」に基づき、めざすべき人間像「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会と関わる力」の育成に向け、各学校において、重点的に取り組む事項を整理した。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakkounei/juten.html>

■学習評価

学習指導要領に基づき、各学校がカリキュラム・マネジメントを進めていく中で、教育活動の充実・改善のために、学習評価を適切かつ有効に活用していくことができるよう、学習評価資料集、授業づくりの道すじ、児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレットを作成した。

<カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価 学習評価資料（小学校、中学校）>

<学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ>

<児童・生徒、保護者向け学習評価リーフレット>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/index.html>

■かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（H20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学習意欲の向上、学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。

<必携 かながわの学びづくり>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/hikkeikanagawa.html>

<かながわ学びづくり推進地域の取組について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/torikumi/toppupeji.html>

■かながわ学力向上シンポジウム（H19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。

<かながわの学びづくりプラン>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/puran/toppu.html>

■自学自習の習慣づくりのための学習教材

全国学力・学習状況調査の結果から、特に小学校において、学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着、また、家での復習や自学自習において課題があることが明らかとなった。そこで、小学校5年生が、自学自習の習慣をつくったり、国語や算数の基礎的・基本的な知識や技能を自分で身に付けたりすることができるように学習教材を作成した。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/jigakujiishu.html>

■課題解決教材（H24～H29）

児童・生徒一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取組の改善を図る。

<Let's challenge!課題解決教材>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/kadaikaiketsu/gaiyou.html>

■ICTを活用した学びづくりのための手引き（小・中学校）

各小・中学校において、ICTを活用した教育活動を進めるにあたっての留意事項や具体的な活用方法などを取りまとめた「手引き」を作成した。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/gakushushien/ict.html>

■キャリア教育

児童・生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるキャリア教育を推進する、小・中学校教員向けの指導資料を作成した。

<かながわキャリア教育指導資料>

<かながわ版キャリアパスポート>

<キャリア・パスポートの効果的な引き継ぎに向けて>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f537614/kyariakyouiku.html>

■小中一貫教育の推進について（H27～）

義務教育9年間を通して児童・生徒の豊かな「学び」と「育ち」を育む小中一貫教育を推進する。

<小中一貫教育の推進について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shouchuikkan/suishin.html>

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

■自己肯定感を高めるための支援プログラム（H30～）

すべての子ども・若者の未来を信じて、そして、神奈川で生まれ、育った子ども・若者たちが、自己肯定感をもってほしいという願いのもと、「見つける→気づく→関わる」というプロセスからなるプログラムを作成した。

<自己肯定感を高めるための支援プログラム>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（H23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。

<かながわ元気な学校づくり通信「はにい」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/hanii.html>

<かながわ「いのちの授業」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/index.html>

■教室に行こう（H26～）

神奈川県における学校の様子を広く県民に広報し、学校の教育活動の理解を得ることを目的として、神奈川新聞教育面「教室に行こう」を掲載する。同時に、神奈川新聞のホームページ「カナロコ」にも掲載する。

県内の幼・小・中・高・特別支援学校において、教職員や子ども達が生き生きと学んでいる授業の様子を県教育委員会の指導主事が取材し、広報する。

<http://www.kanaloco.jp/special/serial/schoolroom/>

■学級経営支援事業（H27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。

<子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/gakkyukeiei-point.html>

■その他関連資料

<インクルーシブな学校づくり Ver. 3.0>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/r01kankoubutu.html>

<小・中学校における政治的教養を育む教育>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seijitekikyoyou/gaiyou.html>

<わたくしたちの生活と進路>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6687/watashin.html>

<手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/shuwa/refuretto.html>

<児童・生徒指導ハンドブック(小・中学校版)>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/seitosidou-handbook.html>

<神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/kanamonkou.html>

<子どもの安全を守る6つの点検>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/anzentenken.html>

<いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
校種を越えたメッセージ～>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/download/h25kankoubutu.html>

<いじめ防止対策を推進するための申し合わせ事項>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/ijime-bouryoku/mousiwasejikou.html>

<支援を必要とする児童・生徒の教育のために（令和3年3月版）>

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/shienkyouiku.html>

<外国につながるのある児童・生徒への指導・支援の手引き>

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f420361/index.html>

<県立総合教育センターの刊行物一覧>

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/kankoubutu/index.html>